

第25回 日本生殖内分泌学会学術集会を開催して



会長

伊藤 潔

東北大学災害科学
国際研究所
災害産婦人
科学分野教授

第25回日本生殖内分泌学会学術集会を2020年12月12日（土）～25日（金）、WEB開催で行いました。当初は12月12、13日の2日間、東北大学医学部良陵会館（仙台市）で開催予定でしたが、今般の新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、参加者の方々の安全を考慮した結果、現地開催を中止しWEB上での開催形式へ変更した次第です。急な変更にもかかわらず、会員の先生方から温かいご指導・ご支援を頂戴し、全国から約280名（生殖内分泌学会側約130名、共催の宮城県産科婦人科学会側約150名）の参加者があり、盛会裏に終えることができました。感謝申し上げます。

本学術集会では毎年、生殖内分泌領域に関連した多彩な基礎的、臨床的な研究成果が発表され、活発な議論が行われています。今回も学術集会の開催を通じて、幅広い視点から生殖内分泌学の基礎と臨床の発展に貢献できるよう準備を進めました。WEB開催で対面での質疑が難しいためシンポジウムはおかず、講演を中心にプログラムを組みました。また自分の専門領域である「ホルモンと癌」および「災害」の視点も加えました。

特別講演では幅広い領域から3演題、福島県立医科大学臨床検査医学講座教授 志村浩己先生から「震災後10年を迎える福島県民健康調査『甲状腺検査』の現在と得られたエビデンス」、聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座教授 鈴木直先生から「小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状—社会的、臨床的ならびに基礎的課題」、そして秋田大学大学院医学系研究科産科婦人科学講座教授 寺田幸弘先生から「ヒト胚発育の細胞生物学、内分泌学：ARTラボで有益な最新情報とその未来」と題したご講演をお願いしました。また教育講演は2演題、東北大学大学院医学系研究科病理検査学分野講師 高木清司先生から「ホルモン依存性腫瘍の免疫および内分泌環境」、東北大学災害科学国際研究所災害産婦人科学分野講師 三木康宏先生から「令和パンデミックの今、大正パンデミックを計量書誌学的に考察する」と題した話をいただきました。一般演題もコロナ禍の社会情勢にもかかわらず、例年同様に35演題が集まりました。

一方、従来の学術奨励賞に加えて、学術委員会からのご助言により今回より若手学術奨励賞を設け、学術集会の活性化をはかる形とし、これらの奨励賞候補演題に関してはリアルタイムのZOOM形式で発表・質疑応答を行って採点・受賞を決めるなど、いろいろと工夫を試みました。ご協力いただいた発表者・審査委員の方々には大変お世話になりました。WEB開催となるまで中止、延期、ハイブリッド開催などさまざまな選択肢があり、初めての試みでもあって右往左往いたしました。どうにかWEBでの開催にこぎ着け、無事に終了することができ安堵したというのが正直な気持ちです。

WEB開催ではありましたが、参加された皆様方にとって本学術集会が生殖内分泌領域の研究・診療での新たな発展・展開となる一助になりましたら幸甚に存じます。

最後に、本学術集会の開催にあたり、ご支援いただきましたすべての関係者の方々に、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

第25回日本生殖内分泌学会学術集会 会長
伊藤 潔

東北大学災害科学国際研究所災害産婦人科学分野教授